

前芝中学校通信

～校長室の窓から～

豊橋市立前芝中学校

第52号

H27. 10. 22

命の尊さ・命を守ることを 学び考える前芝中の生徒③

《保小中で屋上に避難》

【校区・保小中合同防災訓練】

9月6日（日）午前

昨年度に続き2回目となったこの訓練は、雨が降ったり日が射したりのはっきりしないお天気でしたが、保小中の子供たちや先生達約500名に、保護者や校区の方を含め、約800人もの参加で行われました。

校区の方は、学校への避難・人員点呼後、少し早めて開会式を行いました。保小中では、南海トラフ地震後の津波情報の想定で屋上に避難しました。ここでは、保育園の園児さんたちの長い道のりを歩いて中学校に避難し、屋上まで階段を上った後の静かに並ぶ姿が目を引きました。とても立派でした。

《応急手当のブースで方法を教える3年生》

校区の方にとっては開会式直後、保小中では屋上避難直後に、まとまった雨が降り出し、体験ブースのスタートが大人や子供たちでそれぞれになってしまいました。このことや途中の降雨で、大人と子供が別の動きになってしまったり、半日の体験の予定が早まったりしました。予定外の場面での行動決定の方法や指示系統について、整備しておかなければいけないことを実感しました。また、災害時にはそういったことが起こることが想定でき、示唆を与えてくれました。しかし、地域のリーダーとなる方、教職員、そして、生徒たちに臨機応変な動きが見られたことは、有事の場合に考えて問題解決をし、行動する姿につながることを確信することができました。

本訓練を通して、特に最高学年である3年生は、事前学習での準備のもと、体験ブースの運営や支援に携わり、地域のために働く意識が高まったことを、感想文からも感じられました。そして、2年生はその姿に来年最高学年になる自分たちの姿を見て、「次は僕たちも」「来年は私たちが」と、意欲を湧かせたことでしょう。1年生は、炊き出しのお手伝いや運搬係を生き生きと行え、活力を見せてくれました。

当日は、ESD活動を研究・推進してみえる中部大学の伊申特認教授が、市教育委員会《調べ学習で造った防災クイズを待ち時間に出題》



の指導主事と視察のためにご来校されました。校区と保小中で団結して行っている前芝の合同防災訓練に関心をもたれ、今後の活動への激励をして帰られました。

今年の体験を生かし、次年度の訓練に繋げることと、さらに、自他の命を守ることを考え・実践する前芝中生となっていくよう学校・家庭・地域で一体となって支援していかないと考えています。ご協力お願いいたします。

東愛知新聞 (9/7 掲載)

地域一丸で防災

豊橋市前芝小・中学校で合同訓練 津波避難や高齢者対応など

豊橋市前芝校区自治会は6日、前芝小・中学校で合同防災訓練を行った。前芝保育園の園児と児童生徒約500人を含む800人が参加。地域の防災意識向上を図った。

大2・9級の津波を想定し、液状化の危険性も極めて高いとされている。さらに、校区内には要支援者が400人以上おり、高齢者世帯も多い。訓練は午前8時、南海トラフ巨大地震が発生し、震度6強の地震に見舞われたと想定。住民は自宅から避難を開始。3校の子どもたちも中学校屋上を目指し、歩みを進めた。園児は小雨降る中、約300級を徒歩で避



生徒から児童へ出された3択の防災クイズ＝豊橋市前芝中学校で

難。保護者らへの引き取り訓練も行った。その後、参加者は各町に別れ、煙路体験や負傷者搬送など6ブースを回った。今回、中学3年の生徒は「災害時、救助の主力となるように」と、校区の防災リーダーと連携し、運営に携わった。炊き出しは1000食の冷麦やいなり寿司を制作。他にも、手製の3択クイズを出したり、救助で役立つ縄の結び方など

を小学生に教えた。杉下まことさん(14)は「中学生になったら地域の人を助けられるようになってほしい」と話し、廣重夢叶さん(14)は「小さい子をまとめるのが大変だった」と統率力の必要性を実感していた。北河進自治会長(64)は「昼間は大人が外に働きに出ており、有事には中学生が主力となる。保・小とも連携し、地域の力になる人間を育てたい」と話した。この日、住民は避難経路で危険箇所がないかチェックシートに書き込みながら避難。回収した情報は「防災コミュニティマップ」として後日まとめる予定。(飯塚雪)